〈実践記録〉

国語科学習指導計画

― 小学校一年の場合 ―

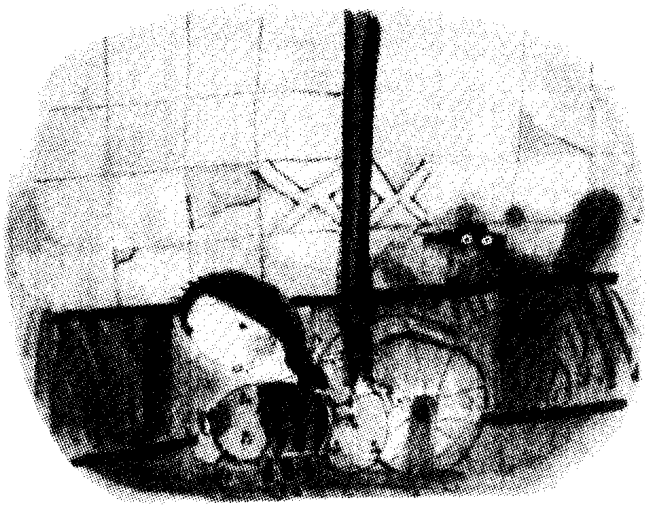
真井 百合子

一、単元・題材名

ようすをおもいうかべて「たぬきの　糸車」　（きし　なみ作）

むかし、ある　山おくに、きこりの　ふうふが　すんで　いました。山おくの　一けんやなので、まいばんのように　たぬきが　やって　きて、いたずらを　しました。そこで、きこりは　わなを　しかけました。

ある　月の　きれいな　ばんのこと、おかみさんは、糸車を　まわして、糸を　つむいでいました。



キーカラカラ　キーカラカラ
キークルクル　キークルクル

ふと　気が　つくと、やぶれしょうじの　あなから、二つの　くりくりした　目だまが、こちらを　のぞいて　いました。

糸車が　キークルクルと　まわるに　つれて、二つの　目だまも、くるりくるりと　まわりました。そして、月の　あかるい　しょうじに、糸車を　まわす　まねを　する　たぬきの　かげが　うつりました。

おかみさんは、おもわず　ふきだしそうに　なりましたが、だまって　糸車を　まわして　いました。

それからと　いうもの、たぬきは、まいばん　まいばん　やって　きて、糸車を　まわす　まねを　くりかえしました。

「いたずらもんだが、かわいいな。」

ある　ばん、こやの　うらで、キャーッと　いう　さけびごえが　しました。おかみさんが　こわごわ　いって　みると、いつもの　たぬきが、わなに　かかって　いました。

「かわいそうに。わなになんか　かかるんじゃ　ないよ。たぬきじるに　されて　しまうで。」　おかみさんは、そう　いって、たぬきを　にがして　やりました。

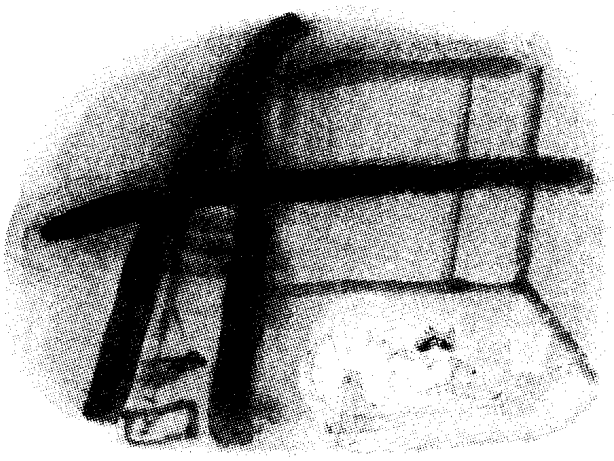
やがて、山の　木の　はが　おちて、ふゆが　やって　きました。ゆきが　ふりはじめると、きこりの　ふうふは、村へ　下りて　いきました。

はるに　なって、また、きこりの　ふうふは、山おくの　こやに　もどって　きました。

とを　あけた　とき、おかみさんは　あっと　おどろきました。いたの間に、白い　糸の　たばが、山のように　つんで　あったのです。その　うえ、ほこりだらけの　はずの　糸車には、まきかけた　糸まで　かかって　います。

「はあて、ふしぎな。どう　した　こっちゃ。」おかみさんは、そう　おもいながら、土間で　ごはんを　たきはじめました。すると、

キーカラカラ　キーカラカラ
キークルクル　キークルクル



と、糸車の　まわる　音が、きこえて　きました。びっくりして　ふりむくと、いたどの　かげから、ちゃいろの　しっぽが　ちらりと　見えました。

そっと　のぞくと、いつかの　たぬきが、じょうずな　てつきで、糸を　つむいで　いるのでした。たぬきは、つむぎおわると、こんどは、いつも　おかみさんが　して　いた　とおりに、たばねて

わきに　つみかさねました。

たぬきは、ふいに、おかみさんが　のぞいて　いるのに　気がつきました。

たぬきは、ぴょこんと　そとにとび下りました。そして、うれしくて　たまらないと　いうように、ぴょんぴょこ　おどりながら　かえって　いきましたとさ。

え　むらかみ　ゆたか

二、題材について

主題

この作品は、伊豆地方の風土の中で生まれ、語り継がれてきた民話である。いたずらだが憎めないたぬきと人のよいおかみさんとの温かい交流の姿が、伊豆の山中を背景に描かれている。糸車の回る音色に合わせて目玉をくるりくるりさせるたぬき、無心に糸をつむいでいるおかみさん、ふと、おかみさんがたぬきに気付くおもしろさ。わなを仕かけたわけを知りながら、たぬきを解き放す優しさ、それに応えるたぬきの行動、そのかかわりが、読者の心を温かく包んでいく、特にたぬきのとった行動は、子どもたちの共感を呼ぶものと思われる。また、月のきれいな晩や、キーカラカラ、キークルクルと回る音が、山おくの一軒家の情景を強め、子どもたちをファンタジックな世界へと誘いこんでいく。

本題材では、この作品のもつユーモラスな楽しさ、温かさに、児童の気持ちにたっぷりと浸らせ、たぬきやおかみさんの気持ちや行動に十分共感させて、そこに自由な想像の世界を広げさせていきたい。そのために、たぬきとおかみさんの心の交流を、その行動の対比の中からとらえさせたい。また、たぬきのかわいらしい動作や表情をとらえさせるためには視写を取り入れたり、たぬきの行動を動作化させて、より生き生きと実感させ、読みを深めていきたい。

構成

場面	範囲	小見出し	あらすじ
一	P30 はじめ～P31 L1	・山奥のきこりの夫婦と　いたずらをする　たぬき	・山奥の一軒家に、きこりの夫婦が住んでいる。まい晩のようにやってきて　いたずらをするたぬきにわなを仕掛ける。
二	P31 L2～P33 L3	・糸車を回すまねをするたぬきと、それを見ているおかみさん	・たぬきがくりくりした目だまで糸車を回すまねをする。そんなたぬきを、おかみさんは、かわいいと思うようになる。

場面	範囲	小見出し	あらすじ
三	P33 L3〜P34 L8	・わなにかかったたぬきをにがしてやるおかみさん	・きこりの仕掛けたわなにかかったたぬきを「かわいそうに」とおかみさんは逃がしてやる。
四	P34 L9〜P35 L2	・冬の山奥の様子	・雪がふりはじめると、きこりの夫婦は、村へ下りていく。
五	P34 L3〜P36 L1	・小屋にもどって　あっと　おどろくおかみさん	・春になって山へ帰ってくると、土間に白い糸のたばが山のようにつんであり、糸車の回る音がするので、見るとたぬきが糸車をまわしている。
五	P36 L3〜P37 おわり	・糸をつむぐたぬきと　そっとのぞくおかみさん	
六	P38 はじめ〜P38 おわり	・かえっていくたぬき	・たぬきはおかみさんがのぞいているのに気付き、ぴょんぴょこと帰っていく。

「キーカラカラ　キークルクル」という糸車の回る音と、たぬきの様子を表す「くりくりした」とか「するりくるり」とかがうまく組み合わさって物語にリズミカルな楽しさをかもしだしている。他に、「キャー」「ぴょんぴょこ」という語句もある。

三、児童の実態

言語事項

。発声発音については、一学期から毎朝朝の会で位置づけ、発声発音練習をしてきた。二学期には、音読も取り入れてやっている。「指が三本入る口で」と口の大きさを意識づける練習してきた。学級発表会の練習でも、ずいぶんはっきり話せるようになってきた。全体的に見て、だいたいの児童は、はっきりと発音できるようになったが、日常の発表を聞くと、まだ聞き取りにくく、語尾までしっかり大きな声で話せない児童が数名いる。みんなの方を向いてはっきり言えるまで言い直しをさせている。

また、話すことになれるために、朝の会で日直の話をさせているが、まだ話すことに時間がかかり、詳しく話せない子が多い。

表現上の特色

。「むかし」という冒頭表現で始まり、「……とさ。」という結びのことばでおわっている。

。人物の提示の仕方

初め「きこりのふうふが」とまとめて提示され、あとは、「きこりは（が）」「おかみさんは（が）」と別々にでてくる。たぬきについては、初め「目だまが」であり、つづいて「目だまも」－「たぬきのかげが」－「たぬきは」と次第に正体がはっきりしてくる書き方をしている。

。擬声語と擬態語

きた。いつもひらがなが正しくきれいに書ける子は15％である。長音、拗音、撥音を正しく書ける子は、67％である。助詞「は」「へ」「を」を正しく使える子は55％で、特にまだまだ助詞の使い方の指導が必要である。

。漢字やカタカナの学習は喜んでするが、文を書く時に適切に使えない児童がみられる。

。作文では、句読点、「　」、改行など、正しく使えない子が目につく。

理解

登場人物の様子や気持ちがわかる文や言葉を見付け、線を引けるように指導している。ほとんどの子が文で見つけることができるようになったが、文節や語句で見つけ出せる子はまだ少ない。具体的に細かく発問して、文の中でも重要でない部分は削って線を引かせている段階である。

話し合いの中で読みを深めていくには、ともだちの意見を集中して聞いたり、進んで発表することが大切であるが、集中して聞けない子がかなりいて、全員の読みになっていかない。深く読み取った発言をした時は、それを他の子にもう一度聞き直したり、「○○さんの意見をどう思いますか。」等とたずねて、理解を広げることを試みている。

音読については、家庭学習に、また朝の会でも取り入れているので上達してきた。

句読点、大きな声、大きな口の三項目を全部満たして読める子は、全体の23・3％である。まだ声の小さい子や、棒読みになる子、早口になる子がいる。すらすら読めるからといって本文をよく見ないで空読みをしたりする子もいる。音読したあとに評価をし、めあてをもたせ、自信をもたせるようにしている。

本時学習する重要語句に関しては、「キーカラカラ　キークルクル」の音は何の音であるか理解できている子は100％。「まわるにつれて」の意味理解ができている子は55％、最重要語句「ふきだしそうに」は12％である。しかしながら、これらの語句を使って短文作りをするとなると、ほとんどの子が適切に使えない。

表現

登場人物になりきって気持ちをふき出しに書くことは、ほとんどの子ができる。その時間に学習した重要語句を使ってまとめを書くことは、一学期「おおきなかぶ」からやっているが、いつも書ける子は、三分の一から半分である。

関心　態度

自分の考えをいつも話そうとする子は、特定の子だけだったのだが、「挙手　発言　がんばりカード」を使うようになってから進んで発表する子が多くなった。内容に自信が持てないのか、挙手のできない子が数名いる。学習姿勢も一学期から指導しているが、人の話をしっかり聞けない子が多い。自分の話がすんでも、他の子の話を聞くこと、話す人の方を向いて聞くことなどを、継続して指導している。

読書面では、ほとんどの子が本を読むことが好きで、学級文庫や図書館の本をよく読んでいる。読み聞かせも常時行い、本に楽しんで親めるように指導している。

四、研究主題とのかかわり

。学校研究主題

自分の読みを持ち、表現する力を育てる指導過程の工夫

――文学教材を中心に――

。研究内容

㈠、基礎的、基本的能力をふまえた指導計画の見直し

㈡、自分の読みを持ち、表現する力をつける指導過程の工夫

ア、読みのめあて作りと提示の工夫（読みの構えを持たせる）

イ、ひとり読み（文や語句に着目した自分の続みを持たせる）

ウ、なかま読みの工夫（文や語句と内容を理解させる発問と話し合い）

エ、まとめの工夫（内容と語句の定着を図り表現させる）

。低学年部研究主題

大切なことばに気づかせ、自分の読みを簡単な文章に書せるようにするためには

ア、読みのめあて作りと提示の工夫

題やさし絵を見ながら、登場人物を出させたり、話の内容を想像する小題づけをする。

↓

全文通読
初発の感想

↓

場面分け、めあて作り「小題＋様子や気持ちを読み取ろう。」

さし絵を見ながら、どんな場面なのか発表させることは、子どもたちの学習意欲をそそる。国語力の個人差に関係なく、楽に自分の意見がいえる。その題材に出てくるさし絵を順にやっていくと、その作品のあら筋がおのずとつかめる。また小題もつけやすい。

イ、ひとり読み

「様子や気持ちがわかるところ」に線を引かせているが、まだ文に目をつけて引いてくる子の方が多い。一年生は初期の段階なので、発問を工夫しては、言葉をみつけやすいようにしている。本題材においても、様子や気持ちを表す文や語句に線を引くことをひとり読みとする。

ウ、なかま読みの工夫

ひとり読みを出し合い、その場面での登場人物の様子や気持ちをみんなで考えて話し合わせる。子どもの発言をうまくとらえてつないだり、切り返し発問をしてなかま読みができればと考えている。低学年なので動作化、役割演技、音読などを多く入れたり、さし絵、ペープサートを用いたり、板書を構造化して読み深めていきたい。

なかま読みで深めるには、話がしっかり聞けることが第一であるが、継続して指導しているところなので、他の児童が言ったことを、繰り返し言わせたりして、理解しながら聞けるように配慮していきたい。

話型指導は、一学期から行っているが、定着の度合いに個人差がある。

エ、まとめの工夫

内容のまとめと語句の定着を図るために一枚ノートを使う。

めあてに立ち戻り、登場人物の様子や気持ちを、一枚ノートに重要語句を使ってふき出しの形でまとめさせている。

重要語句がそのままの形で使えない場合は、その語句の意味内容をふまえて書けていればよいと考えている。他の重要語句については、空白をうめる形で、右ページで定着させる形式をとっている。

めあてにそって、まとめをしてから、だれになって書くのか指示をして書かせるようにしている。なかなか書けない子のために、めあてにそった書き方をしている子のノートを紹介したり、教師側で提示したりして、なるべく多くの子が書けるように指導している。

技能目標	○会話文や様子がよく表れている文を音読したり、動作化したり、視写したりして、場面の様子や人物の気持ちを豊かに想像することができる。 ○読み方や意味のわからない文字・語句に注意して文章を読み取ることができる。 ◎擬音語・擬態語などの語句に関心を持ち、意味や使い方を理解することができる。
語　　句	語句指導を中心とした言語に関わる指導事項
たぬきの糸車 一けんや・いとぐるまつむぐ・土間・しょうじ・いたの間・いたど	・発音、句読点に気をつけて音読させる ○難語句を見つけさせ、その意味を予想させる
(糸・気・村・白・音・見・車)	・漢字の正しい読み方、書き方を指導し、その字を使った言葉集めをさせる
	・登場人物の確認をさせる ・人物に視点をあてて、おもしろかったことやいいなと思うことを書かせる
むかしむかし、やがてある月のきれいなばんはるになって、あるばん	・場面の移りかわりを表す言葉に着目して場面分けをさせる ・おかみさんとたぬきの行動に着目して小題をつけさせる
○山おくの一けんや ◎まいばんのように ○わなをしかけました	◎「まいばん」と比較することにより「まいばんのように」は、こない時もあることを理解させ、さびしいからやってくるたぬきの気持ちをつかませる、正しい用例化の指摘をすることにより、語句の正しい使い方を理解させる ○山おくの一けんや（経験想起）わなをしかけました（意味理解と概念くだき）
○キーカラカラキーカラカラキークルクルキークルクル ◎まわるにつれて ○ふきだしそうに	◎動作化により「ふきだす」の意味を理解させ、「ふきだしそうに」と比較することによって、おかしさをこらえるおかみさんの気持ちを想像させる ○キーカラカラキークルクル（音読）まわるにつれて（動作化・音読）
○まいばんまいばん ○いつものたぬき ○こわごわ ◎「かわいそうに」	・まいばんまいばん（比較） ◎元気のいい音読と比較して、ゆっくりやさしく音読することによっておかみさんの気持ちをつかまえる ○いつものたぬき（言い換え）こわごわ（動作化）
○やがて	○季節を指摘させる、類似語で言い換える ・一字下がり表記に気をつけて全文を視写させる
◎あっとおどろく ○山のように	◎「あっとおどろいた」の用例化により、たいへんおどろいたことを理解させる、ありえないはずのことを目前にし、おどろくおかみさんの様子をつかませ、気持ちを想像させる ○山のように（用例化）
・キーカラカラキークルクル ◎そっとのぞく	◎「そっと～したこと」の用例化により、相手に気づかれないようにすることを理解させる「そっとのぞく」はたぬきに気づかれまいとするおかみさんの様子をつかませ、気持ちを想像させる
○ぴょこんと ◎うれしくてたまらないというように ○ぴょんぴょこ	◎「うれしい」と比較したり、「うれしくてたまらない」ことの経験想起により、とてもうれしくてじっとしていられないようなたぬきの気持ちを想像させる ○ぴょこんと（動作化）ぴょんぴょこ（動作化・比較）
	・人物に視点をあてて学習をしてよくわかったことを書かせる
	・擬音語や擬態語・会話文・情景描写の効果的な音読の仕方を見つけさせる
◎まいばんのように ◎ふきだす　◎そっと	・擬音語はカタカナで書くことを確認させる ○学習した語句を適切に使って短文作りをさせる

五、指導計画

（1）年　題　材（たぬきの糸車）（全14時間）

価値目標	○いらずらものだがにくめないたぬきと、人の良いおかみさんの人柄を動作や表情などに気をつけて読み取り、二人のあたたかい心の通じ合いに共感することができる。

次	時	主な学習活動	指導内容
一	1	・全文音読をし、難語句を見つける	・姿勢・口形・発音・句読点に注意した音読 ・難語句の指摘 ・題名とサブタイトル・さし絵を結びつけた学習内容の想起
	2	・新出漢字の読み方・書き方を知る	・新出漢字の読み方、書き方とそれを使った言葉
	3	・初発の感想を書く	・全文を通しての音読と人物に視点をあてた初発の感想の書き方
	4	・場面のあらすじをつかむ	・さし絵や場面の移りかわりを表す語句を手がかりにした場面分けと小題つけ
二	1	・きこりの夫婦のくらしとたぬきのいたずらについて読み取り、登場人物の関係をとらえる（一場面）	・二人きりで山おくに住むきこりの夫婦のさびしいくらし ・一けんやなので、まいばんのようにいたずらをしにくるたぬきの様子 ・にくたらしくなってわなをしかけるきこりの気持ち
	②	・糸車に魅かれるたぬきの様子と、それを見ているおかみさんの様子や気持ちを読み取る（二場面）	・糸車をまわすまねをするたぬきのかわいらしさとたぬきをかわいく思いはじめるおかみさんの様子と気持ち
	3	・わなにかかったたぬきをにがしてやるおかみさんの様子と気持ちを読み取る（三場面）	・わなにかかったたぬきを、かわいそうに思ってにがしてやるおかみさんのやさしさ
	4	・冬の山おくの様子を想像し、全文を視写する（四場面）	・きこりの夫婦が山を下りなければならない山おくの冬のきびしさ
	5	・糸のたばや糸車を見たおかみさんの様子や気持ちを読み取る（五場面前半）	・山おくの小屋にもどってきて、あっとおどろいたおかみさんの様子
	6	・おどろいたおかみさんの様子と、糸車をまわすたぬきのようすを読み取る（五場面後半）	・そっとのぞいたおかみさんのおどろきと夢中で糸をつむぐたぬきの様子
	7	・帰っていくたぬきの様子と気持ちを読み取る（六場面）	・満足して帰っていくたぬきの様子と気持ち
三	1	・たぬきとおかみさんへ手紙を書く	・学習したことをふまえた手紙の書き方
	2	・音読会をする	・気持ちや様子がわかるように工夫した音読
	3	・学習のまとめをする	・擬音語・擬態語の視写と学習した語句の意味や使い方の確かめ
課外		・誤字・脱字を見直し、一枚ノートを整理して本作りをさせる	

内容語句					備考
き	おかみさん		情景	難語句	
気持ち	様子	気持ち			
	きこり ○わなをしかけました。		・むかし ○山おくの一けんや	・きこり ・ふうふ	〈学習ページ〉 ・音 ・かかる ・かおつき ・おもいうかぶ ・読みかえ ・文のつなぎ ・事実と会話
	・糸車をまわして ・糸をつむぐ ・ふと気がつくと	・おもわず ◎ふきだしそうに ・だまって ・「いたずらもんだがかわいいな」	・月のきれになばん ○キーカラカラ　キークルクル ・やぶれしょうじ ・月のあかるいしょうじ ・たぬきのかげがうつりました。		
	・にがしてやりました。	○こわごわ ◎「かわいそうに」		・こや	
	・村へ下りていきました。		・山の木のはがおちて ・ゆきがふりはじめると		
	・もどってきました。	◎あっとおどろきました	・はるになって ・山おくのこや ○山のように ・まきかけた糸までかかっています。	・いたの間 ・糸のたば	
	・ごはんをたきはじめました。 ・ふりむくと	・「はぁてふしぎな」 ・びっくりして ◎そっとのぞく	・キーカラカラ　キークルクル	・土間 ・いたどのかげ ・たばねて ・わきに	
	・のぞいている				

六、語句分析

題材名　たぬきの糸車

場面（段落）		構成	関係語句			たぬ様子
			指示語など	接続語	文末	
一	P30～P31 L1	・山おくのきこりのふうふといたずらをするたぬき	ある山おく	そこで	ーました。	◎まいばんのように ・いたずらをしました。
二	P31 L2～P33 L3	・糸車をまわすまねをするたぬきとおかみさん	ある月の それからというもの	そして	ーました。	・くりくりした丁だま ・のぞいていました。 ○まわるにつれて ・くるりくるりと ・まわすまね ○まいばんまいばん ・くりかえしました。
三	P33 L4～P34 L8	・わなにかかったたぬきをにがしてやるおかみさん	あるばん		ーました。 ーに。 ーないよ。 ーで。	・キャーッという ・さけびごえ ○いつものたぬき ・わなにかかって
四	P34 L9～P35 L2	・冬の山おくの様子		○やがて	ーました。	
五	P35 L3～P36 L1	・山おくの小屋にもどってきておどろくおかみさん	そのうえ		ーました。 ーのです。 ーます。	
	P36 L2～P37 L9	・糸をつむぐたぬきとそっとのぞくおかみさん	そうおもいながら	すると こんどは	ーな。 ーちゃ。 ーました。 ーのでした。	・ちらりと ・いつかのたぬきが ・じょえずなてつきで ・おかみさんがしていたとおりに ・つみかさねました。
六	P38 L1～P38	・かえっていくたぬき		そして	ーました。 ーましたとさ	・ふいに ○ぴょこんと ・とび下りました。 ◎うれしくてたまらないというように ○ぴょんぴょこ ・おどりながら

七、本時の展開（十四時間中第六時）

価値的目標	技能的目標
・糸車をまわすまねをするたぬきのかわいらしさと、たぬきをかわいく思いはじめるおかみさんの様子や気持ちを読み取る。	・たぬきやおかみさんの様子や気持を表す文や語句を見付けることができる。 ・「キーカラカラ　キークルクル」「～につれて」「ふきだしそうに」の意味や使い方を音読や動作化により理解することができる。

過程	ねらい	教師の働きかけ	語句	子どもの姿	言語事項
つかむ	・本時の学習に対する構えを持たせる	一、前時までの学習を想起させる。 二、本時の場面を音読する。 三、本時のめあてを確認させる。 糸車をまわすまねをするたぬきとおかみさんの様子や気持ちを読み取ろう。		・二人きりで山おくに住むきこり夫婦のさびしいくらしと、まいばんのようにいたずらをしにくるたぬきの様子を思い出す。 一斉音読	音読
える	・文章や話句を見つけることにより、自分の読みを持たせる。	四、「ある月のきれいなばん」の様子を相像させ、発表させる。 一軒家からはどんな音が聞こえてきましたか。 五、ひとり読みをさせる。 たぬきの様子や気持ちがわかるところに　線、おかみさんの様子や気持ちに　線を引かせる。	・キーカラカラ キーカラカラ キークルクル キークルクル	・本時場面の目当てをノートに書く ・お月さんが満月の夜 ・大きな月で、夜だけど明るい ・まん丸で黄色の明るい月 ・おかみさんが糸車をまわしている音	音読

考	深める	まとめる
・自分の読みを発表したり、友達の読みを聞いたりして考えを深めさせる		・本時の読みを振り返らせない内容と話句のまとめをさせる。
六、文章や語句をもとに、たぬきの様子や気持ちを出し合わせる。 だれがたぬきを見ているのか考えさせる。	七、たぬきの様子を見ていたおかみさんの様子や気持ちを出し合わせる。 たぬきのかわいらしい様子を見ておもわずふきだしそうになるのをがまんしているおかみさんの気持ちを考える。	八、重要語句を視写させ、まねを見てふきだしそうになったおかみさんになって、ふき出しを書かせる。
○まわるにつれて ・くりくりした ・くるりくるり	◎ふきだしそうに	
・何をしているんだろう。 ・おもしろそうだな。 ・この音は糸車をまわす音か。 ・こんなふうにして糸をつむぐのか。すごいなぁ。 ・おもしろそう。まねしてみよう。 ・あら、あのいたずらたぬきだ。 ・こっちをのぞいているわ。 ・なんてかわいい目だま。 ・糸車にあわせて、目だまもくるりくるりまわっているわ。 ・まぁ、わたしのまねをしているわ。おもしろいわね。 ・糸車が好きなのね。 ・いつもいたずらばかりしているけど、かわいいなぁ。 ・びっくりするといけないから気がつかないふりをしていよう。		・やぶれしょうじのあなから二つのくりくりした目だまが見えるわ。糸車がまわるにつれて、目だまもくるりくるりとまわっているなんておもしろいなぁ。なんてかわいいんでしょう。あのいたずらたぬきが。 ・かわいいなぁ。糸車がまわるにつれて目だまもくるりくるりとまわしながらわたしのまねをしているなんて。おもわずふきだしそうになるけど、気がつかないふりをしていましょう。
動作化 音読 動作化 「ふきだす」 「ふきだしそうに」 との比較		

14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	○	△	○	△	△	△	○	△	△	△	△
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	△	○	△	△	△
○	○	△	△	△	△	○	○	△	○	○	○	△	○	△	○	○	○	△	△	△	○	△
○	○	△	△	△	△	○	○	△	○	○	△	△	○	△	△	△	△	△	△	○	△	△
○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	△	△
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	△	△	△	△	△	△	△
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
△	○	△	○	○	○	△	△	○	△	△	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△
△	△	○	○	△	○	△	○	○	○	△	○	△	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○
○	△	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	○	△	△	○	○	△	△
○	◎	○	○	○	◎	△	◎	◎	△	△	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△
○	△	○	○	○	△	△	△	△	○	○	△	○	○	△	△	○	△	△	△	△	△	△
○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	△	○	△	△	△	○	○	△	△

中位　○の数　11～9
言語事項・理解がやや劣る。

下位　○の数　8以下
言語事項や関心態度が低い。

参考1

（1年）国語　　実態調査　　1年○組　　12月3日までに調査

観点		氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
言語事項	発音・発声	姿勢・口形に注意してはっきり話す。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
	文字	ひらがなを正しく書く。	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	◎
		学習した漢字を文の中で正しく使う。													
	表記	長音・拗音・撥音を正しく書く。	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	○	△	○	◎	◎
		助詞・「は」「へ」「を」を正しく使う。	◎	○	△	○	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	◎
		かぎ「　」のある文を正しく□□する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
	文構成	文の中の主語・述語が指摘できる。													
理解	語句への着目														
		場面の様子や人物の気持ちが分かる語句を見つける。	◎	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○
	読み方	句読点に注意し大きな声ではっきり音読する。	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○
		人物の様子や気持ちを想像する。													
	語句調査	キーカラカラ　キーカラカラ キークルクル　キークルクル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		まわるにつれて	○	○	○	○	△	○	△	○	△	○	△	△	○
		ふきだしそうに	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△
表現		重要語句をふまえて学習のまとめを書く。	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	○	○
関心・態度	話し方	自分の考えを進んで話そうとする。	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	聞き方	先生や友達の話をしっかり聞こうとする。	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○
	読書	楽しんで読める。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○

上位　○の数　14項目中12人以上

学習に対して積極的に取り組み、理解力が優れている。文を書くことに抵抗がなく、語いが豊かで、自分の考えを進んで話す。

参考2

ことばのてすと（第一次第二次のあと行なわれたもの）

1ねん ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(1) キーカラカラ　キーカラカラ　キークルクル　キークルクルとは、なんのおとですか。
（　　）

(2) ただしい　つかいかたが　してあるものに　○をつけましょう。

ふと
① ある　ばん、ふと　あめがふりました。（　）
② ふと　うしろを　むくと、おかあさんがたっていました。（　）
③ ふと　ゆびから　ちが　でていました。（　）

くりくりした
① くりくりした　あたま。（　）
② くりくりした　まゆげ。（　）
③ ねこの　くりくりした　目だま。（　）

くるりくるりと
① くるり　くるりと　ちゅうがえりをする。（　）
② くるり　くるりと　かみがまう。（　）
③ くるり　くるりと　ねころがる。（　）

つれて
① せんせいに　つれて　こうえんへいく。（　）
② となりに　つれて　わらってしまった。（　）
③ ひがたつに　つれて　わすれてしまう。（　）

(3) おなじ　いいかたに　○を　つけましょう。

まわるにつれて
① まわる　ところに　つれていく。（　）
② まわり　ながら（　）
③ まわるのとおなじように（　）

おもわず にっこりする。
① うっかり、おもってもいないのに。（　）
② おもいだして（　）
③ はりきって（　）

ふきだしそうになる
① おもいっきり　わらっている。（　）
② 「プッ」とつい　わらってしまった。（　）
③ 「プッ」とわらって　しまいそうだが　がまんしている。（　）

(4) ぶん　づくりを　しましょう。
○ ～につれて～
（　　）
○ ～の　ときに　ふきだしそうになる。
（　　）

参考3 **以下は各時の終わりにまとめとして書かせたもの。**

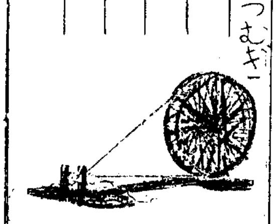
たぬきの糸車 (1)

／ねん　くみ

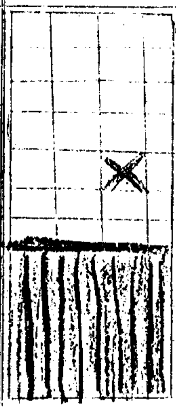
ことばしらべをしましょう。

(十一月二十日)

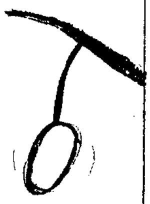
糸車　糸をつむぎながら、まくきかい。



しょうじ　かみをはったたのこと。

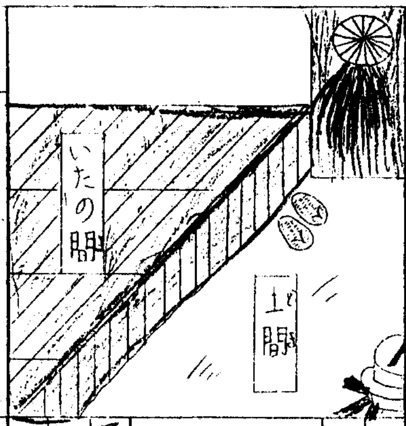


わな　なわをまるくして、どうぶつをつかまえるもの

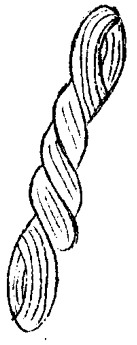


いたど　いたのと。

つむぐ　糸をねじりながら、つないで　ながい糸にすること。



糸のたば　つむいだ糸を一まとめにしたもの。



てつき　しごとをするときのてのようす。

わき　じぶんのそば。

たぬきの糸車 (2)

／ねん　くみ

めあて (十一月二十一日)

たぬきの糸車をよんで、おもしろかったところや　こころにのこったことを　かきましょう。

　キーカラカラキーカラカラ
キークルクルキークルクル
という、ところとか、糸車が
キークルクルと、まわるにつ
れて、二つの目だまも、くる
りくるりとまわりましたとい
うところどかがおもしろかっ
たです。たぬきが、わなに、
かがっているところが、かわ
いそうでした。たぬきは、お
かみさんが、わなにかかって
いるたぬきを、み
て、かわいそうで
にがしてくれた、
おれいに、やった
のかもしれないよ。

たぬきあおんがえしみたいだよ。

たぬきの糸車（2）

めあて（12月9日）

たぬきの糸車をよんで、おもしろかったところや こころにのこったことを かきましょう。

わたしは、たぬきがすきです。

糸車をまわしています。

キリカヲカラ

キクルクルと

もしろかったよ。

がらがえっていたよ。

それンぴょんぴょ

ころがおもしろかったよ。

るとこころがおもしろかったよ。

目だまがくるくるとおどろいたよ。

ぐるりと糸車のあなから

れしそうにつくれるやふ

たぬきの糸車（2）

めあて（12月3日）

たぬきの糸車をよんで、おもしろかったところや こころにのこったことを かきましょう。

わたしは、たぬきが

たぬきの糸車をまわしたこと

一ばんおもしろかったこと

34ページのものたぬきがいつもしていることがいうことです。

ところがおもしたもこたこんとこ

ぴょんぴょんとびはねたこと

そうとにこころにのこったこと

いうとこころがこころにのこりました。

おどりんぴょこらこ

かえってなぴょこ

きまし

たとしがらこ

さ。い

たぬきの糸車 (3)

一ばめん めあて（ 月 日）

山おくのきこりの ふうふと いたずらをするたぬきのようすや きもちを よみとろう。

/ねん くみ

むかし、ある 山おくに、きこりの ふうふが すんで いました。山おくの一けんやなので、まいばんのように たぬきが やって きて、いたずらを しました。そこで、きこりは わなを しかけました。

、いたずらす
てたのしいな
あもっともっ
といたずらし
よ　と
つまらないの
がふっとんじゃ
たの

いたずらた
ぬきめぢよつ
とこらしめよ
うかなあ。
つかまえたら
たぬきじるに
してしまうぞ。

たぬきの糸車 (4)

二ばめん めあて（12月7日）

糸車を まわす まねを する たぬきと おかみさんの ようすや きもちを よみとろう。

/ねん くみ

ある 月の きれいな ばんの こと

キーカラカラ　キーカラカラ

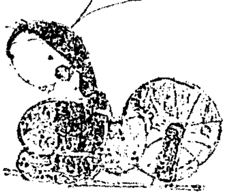
キークルクル　キークルクル

ふと 気が つくと、やぶれしょうじの あなから、二つの くりくりした 目だまが、こちらを のぞいて いました。

糸車が キークルクルと まわるに つれて、二つの 目だまも、くるりくるりと まわりました。

おかみさんは、おもわず ふきだしそうに なりましたが、だまって 糸車を まわして いました。

クックク。おかしい
な。糸車がキークルク
ルてまわるにつれて、目
だまをまわすなんてほ
んとうに、おもしろいた
ぬきだわ。いたずらだと
おもっていたのになかかわいいな。



たぬきの糸車（1）

1ねんくみ

三ばめんめあて（月日）

わなにかかったたぬきをにがしてやる

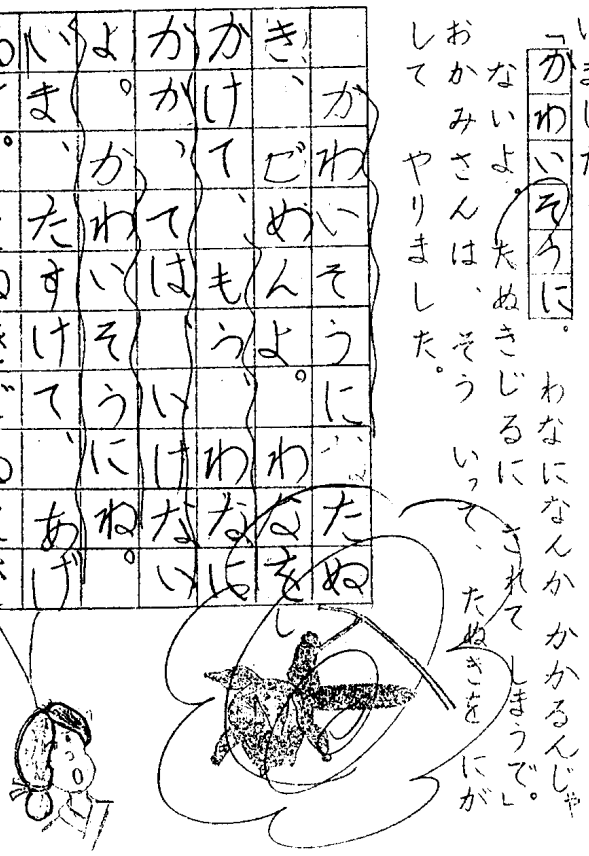
おかみさんのようすやきもちをよみとろう。

それからというもの、たぬきは、まいばんまいばんやってきて、糸車をまわすまねをくりかえしました。

おかみさんがこわごわいってみると、いつものたぬきが、わなにかかっていました。

「かわいそうに。わなになんかかかるんじゃないよ。たぬきじるにされてしまうで。」

おかみさんは、そういって、たぬきをにがしてやりました。



たぬきの糸車（6）

1ねんくみ

四ばめんめあて

ふゆの山おくのようすをよみとろう。

やがて、山の木のはがおちてふゆがやってきました。

ふりはじめきましたふうふは、

ふりこのいきましたと、村へ下りていった。

たぬきの　糸車(8)

1ねんくみ

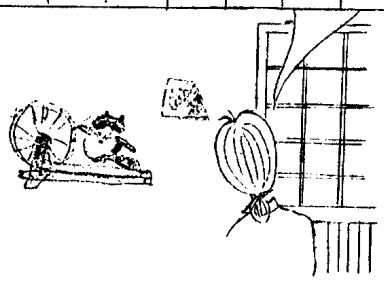
五ばめん(二)
めあて（月　日）

のようすや　きもちを　よみとろう。

「はあて、ふしぎな・どう　した　こっちゃ。」

と、糸車の　まわる　音が、きこえて　きました。
びっくりして　ふりむくと、いたどの　かげから、ちゃいろの
しっぽが　ちらりと　見えました。

いつかの　たぬきが、じょうず
なてつきで、糸を　つむいで　いるのでした。たぬきは、
つむぎおわると、こんどは、いつも　おかみさんが　して　いた
とおりに、たばねて　わきに　つみかさねました。



たぬきの　糸車(9)

1ねんくみ

六ばめん
めあて（月　日）

のようすや　きもちを　よみとろう。

たぬきは、ふいに、おかみさんが　のぞいて
いるのに　気が　つきました。
たぬきは、　そとに　とび下りました。
そして、　おどりながら
かえって　いきましたとさ。

〔付記〕

1、この学習指導計画は、各務原市内の他の小学校で行なわれたものを、実態に即して編成し直し、指導されたものである。

2、本単元終了後、児童のイメージの拡充も評価をかねて、「たぬきさんへお手紙を書こう。」という形で、表現領域の指導へも配慮がなされた。

3、本稿の時徴のひとつは、まず教師が学級児童の理解に努め、的確な実態把握の上に指導計画がたてられていることである。教育の現場で教師として最も必要な実態把握が、参考1で詳細に試みられている。

4、参考3は、各時限ごとにきめの細かい指導がなされていることを示す実例である。学習指導のひとつの典型を示すものであると言えよう。

5、筆者は、昭和六十二年度、本学卒業生。現在、各務原市立中央小学校教諭として活躍中である。

6、本稿は日常の実践を、教育実習等の参考にもなろうかと、そのままの形で提供していただいたものである。

（小瀬渺美・記）